

### 地域の声を形に！ 「西原に住宅団地」

雪深い信濃路も春の訪れと共に、花から若葉の季節、山々にほど良く残雪、雪解け水が堰一杯に流れ、つばめが飛び交い、ひばりが舞い、その中で作物の手入れ、収穫と忙しい日々の中にも農村の豊かさは失われず、のどかな風情は人の心を癒します。

ここ和田地区は、昭和三十年代に畑を開田、古田のほ場整備大型機械の導入が始まり、五十年代には水稲育苗施設、ライスセンター、畜産、花卉団地の造成、平成に入り「すいか共選所」、さらに「米自動低温倉庫」が竣工し、肥沃な土地四百畝の活用と畜産を組み合わせて十数億円余りの生産を挙げています。



スイカ畑つるの手入れ

一方で、工業団地、環状高家線が縦断し、変遷と異なる環境が、環境は大きく

### 和田地区だより



JKタウン和田西原

変わり、高齢化率二十七％は何か陰りさえ感じます。平成三年新聞で「和田の農地が危

ない」に端を発し、農村計画委員会が結成され調査の結果、農地を売却したいが三十一％、これ等を踏まえ和田の西原を抜本的に見直すこととし、事業費約十七億円を投じ整地工約一〇九畝、一角に住宅団地用地、農家分家用地を換地し、平成十二年着工し十七年竣工の運びとなりました。

住宅団地「JKタウン和田西原」は、今年五月三日より分譲開始となり、好評で順調なスタートをしています。

ほぼ3結以内に学校、大型スーパー等主要施設を有し、アルプス連峰の絶景が一望できる緑豊かな環境のもと、活気に満ちた街作りが期待され、入居者を歓迎致しております。

農業委員 三溝 一郎 (和田)

松本平のほぼ中央に位置する新村地区は、梓川の豊かな水と肥沃な土壌がもたらした扇状地の恩恵を受け、遠く鎌倉、室町の時代より安定したお米の稔る里として人々の営みが続けられてきました。

今、田植えの終わった水田に白亜の殿堂、松本大学キャンパスが美しく映える光景は、新村の新しいシンボリック景観となっています。かつて今まで誰も経験しない激動の時代の中にあつて、地域が守り育ててきた美田を後世にどう伝えて行くか、就農者の減少と高齢化進行という現実を前にして近い将来担い手の育成はどうあるべきか、国の農政の大転換とも重ね、この対応の模索が始まってあります。



白亜の殿堂松本大学

また、複合経営としてカーネーション中心とした花やスイカ等の

### 新村地区だより



満開のカーネーション

農業委員 西原 卓男 (新村)

野菜作りも盛んに行われ、当地区の農業生産も大きな発展を見ました。しかし一方で多くの農家は他産業に職を求める兼業が主流となり、また農地を離れる人達が現れる等長く生活の根幹を支えてきた水田はその役割を後退させ、それにつれて地区の姿も大きく変わりつつあります。

農家みなさんに役立つ  
全国農業新聞を読みましょう

発行日 毎週金曜日 購読料 月 600円

※7月は購読料の口座振替(1月~6月分)がありますので口座残高のご確認を

お申し込みは地区の農業委員、または農業委員会事務局(電話34-3226)まで